

2021 年度 第 3 回理事会議事録

期 日：2022 年 3 月 20 日（日）14 時 30 分～16 時 30 分

会 場：ビジョンセンター日本橋 東京都中央区日本橋室町 1-6-3 山本ビル本館 402 室

会場出席：黒田 輝、内田幸司、笠井治昌、菊地克彦、熊代正行、土井 司、

Web 出席：上田 優、大野誠一郎、高橋順士、山崎 良、吉丸 大輔、錦 成郎

委 任：江田哲男、鈴木雄一、高橋光幸、寺田理希、沼野智一、

[報告事項]

1. 第 17 回磁気共鳴専門技術者認定試験の実施

(1) 認定試験の実施

1) 期日 2022 年 3 月 6 日（日）11:45 ～ 16:30

2) 東京会場 ビジョンセンター日本橋 Vision Hall・501 室

東京都中央区日本橋室町 1-6-3 山本ビル本館 5 階・9 階

実行委員 江田哲男、菊地克彦、高橋順士、高橋光幸、吉丸大輔、

天野 淳、上山 毅、勝又翔太、鈴木宏明、北川 久、高橋俊行、畑 純一

3) 大阪会場 難波御堂筋ホール ホール 6

大阪市中央区難波 4-2-1 難波御堂筋ビルディング 6 階

実行委員 土井 司、内田幸司、山崎 良、佐川 肇、垂脇博之、立石宗一郎、竹森大智

(2) 感染対策

1) 10 日以内に感染者と接触のあった者の出席を認めなかった。

2) 当日の朝に健康状態を管理票に記入していただき体調を申告してもらった。

3) 試験会場の収容人数を定数の半分以下にした。

4) 試験会場に入場時に検温と入室・退出時には手指消毒を励行した。

5) マスクはサージカルマスクの着用とし、ウレタン製の者にはマスクを配布した。

6) マスクは鼻を覆うように着用することを促し、室内では外さないように通達した。

7) 試験会場での飲食禁止は原則禁止とし、試験会場内では私語を慎むよう通達した。

8) 退出は時間をとって順に退出するよう誘導し、寄り道せずまっすぐ帰宅するよう促した。

(3) 2 会場同時開催について

1) 3 桁の受験番号の前に東京は「E」、大阪は「W」を付けた。

2) 大阪会場のシステムトラブルにより試験時間を 10 分遅らせて 13:10 に開始した。

3) それに伴って第 2 部の終了時間も 10 分遅くなり 15:25 になった。

(4) 不正対策

1) 携帯電話はマナーモードにして試験前に鞆に入れてもらった。

2) 机の上には、受験票、筆記用具、電卓と腕から外した時計のみとした。

3) 不正がないように試験会場を監視した。

4) 一旦退出した場合の再入場は認めないこととしたが、該当者はいなかった。

(5) 認定試験

東京会場 申請者 163 人 受験者 123 人 受験率 76.1%

大阪会場 申請者 134 人 受験者 93 人 受験率 68.7% 全体では 72.7%

初回受験者 98 人 (45.4%) 再受験者 118 人 (54.6%)

2. 第 17 回認定試験作成委員会報告

(1) 第 17 回認定試験作成にあたって

- 1) 今年度導入のクラウドタイプの「過去問活用ソフト」を用いて試験問題を作成した。
出題者による難易度も聴取した。

試験作成委員：青木茂樹，上田 優，上山 毅，内田幸司，笠井治昌，小林智哉，
佐川 肇，鈴木 真，高橋順士，垂脇博之，長濱宏史，沼野智一，
畑 純一，秦 博文，山崎 良，吉丸大輔

- 2) 認定試験作成委員会は JSRT 東京事務所を起点に ZOOM を用いたハイブリッド形式にて 2 回開催した。

・第 1 次 (11 月 14 日 (日))：現地参加 5 名，リモート参加 9 名，欠席 2 名

・第 2 次 (12 月 12 日 (日))：現地参加 4 名，リモート参加 9 名，欠席 3 名

- 3) 各試験作成委員会後，2 週間を目途に「過去問活用ソフト」を用いて試験問題を監査した。
監査委員：熊代正行，寺田理希

- 4) コアメンバーにて難易度を基に 50 問を選別して添削作業を行ったのち，印刷業者との校正作業を行った。

(2) 第 17 回認定試験結果の評価

1) 得点分布

	人数	平均点	最高点	最低点	標準偏差
全 体	216	59.3	82	24	11.6
初 回	98	61.1	80	36	11.0
再受験	118	57.8	82	24	12.0

2) 問題別正答率・識別指数

正答率 平均：59.3% 最大：94.4% 最低：15.7%

識別指数 平均：0.294 最大：0.679 最低：0.043

3) 問題別選択肢別回答率 (比率順位が 1 位未満の問題とその比率)

問 12 (3 位, 20.8%)，問 13 (3 位, 15.7%)，問 21 (2 位, 40.7%)，問 27 (2 位, 22.2%)，問 29 (3 位, 20.8%)，問 31 (2 位, 39.4%)，問 44 (2 位, 18.1%)

[議事]

1. 第 17 回磁気共鳴専門技術者認定試験合格者の承認

試験作成委員会から試験結果を基に不適切問題と合否判定基準について審議した結果，不適切問題は無く 60 点以上の 116 人を合格としたいとの報告があった。

受験者 216 人 60 点以上：116 人 合格率：53.7% を承認した。

2. 第2回・第7回・第12回認定者の更新の承認

	試験合格者	申請資格者	更新者	(上級更新)	更新延長	未申請	今回更新率	認定者比率	総失効者
第2回	37	31	25	4	0	6	80.6%	67.6%	12
第7回	83	79	73	7	3	3	92.4%	88.0%	7
第12回	88	88	84	6	2	2	95.5%	95.5%	2

3. 第18回磁気共鳴専門技術者認定試験の実施について

(1) 現在の3月上旬実施からの変更案の検討

目的) 一般的な感染症が流行する時期から遠ざける。

年度末の多忙期を避ける。

第18回磁気共鳴専門技術者認定試験は、2022年10月末に実施を予定する。

(2) 試験準備予定案

1) 認定試験問題作成スケジュール

- ①試験作成委員の決定 2022年4月上旬
- ②試験作成委員による問題作成 2022年4月～6月
- ③試験問題検討会 第1回：2022年6月中旬、第2回：7月中旬
- ④試験問題校了 2022年8月上旬

2) 第18回認定試験の運営スケジュール

- ①試験案内 2022年4月上旬
- ②受験申請受付 2022年7月1日～31日
- ③書類審査 2022年8月1日～20日
- ④第2回理事会（受験資格審査） 2022年8月下旬
- ⑤受験資格者通知 2022年9月上旬
- ⑥第18回認定試験 2022年10月下旬
- ⑦第3回理事会（認定者承認） 2022年11月下旬
- ⑧認定証発行 2022年12月中旬
- ⑨第18回試験合格者の認定有効期間 2023年1月1日～2028年3月31日

(4) 更新期日について

- 1) これまでの認定者の更新時期は今までと変わりなく毎年3月31日とする。
- 2) 第18回以降の実施試験の認定期間は翌年1月から5年後の3月までとする
(第18回認定者の認定機関は2023年1月～2028年3月までの5年3か月となる)

4. 規約の改訂

(1) 磁気共鳴専門技術者更新制度細則

提案理由) 収集ポイントのA群の学術成果の最高60ポイントの制限は必要なく、自己研鑽成果の最低40ポイントのみを決めておけばよい

- 6. (1) A群：学術成果（最高60ポイント）→（最高60ポイント）を省く

(2) 旅費規定

今回の理事会では審議が尽くせなかったもので、次回理事会に再度提案する。

(3) 認定研究会審査基準について

更新制度細則 6. 収集ポイントの詳細 (2) B 群 機構が認定した関連団体の学術大会の適応など、今後も判断に困る申請があった場合には、その都度理事会に諮って決める。

5. MRI 医療安全セミナーの開催について

(1) 開催期日 12月3日(土)を予定する

(2) 開催場所 東京都立大学を候補とする。Web環境のある部屋を希望する。

(3) 開催プログラム

10:00-12:00 1) 基本的な医療安全対策 高橋 順士

2) 強磁性体の持込み 秦 博文

3) 体内装着品への対応 高橋 沙奈江

4) 操作モード (SAR, dB/dt, slew rate) 小見 正太郎

13:00-15:00 5) 化粧に関する考え方と実際の対応 星 由紀子

6) 貼付剤の対応と注意点 吉田 礼

7) 条件付き MRI 対応医療機器について 矢部 邦宏

8) 体外装着品への対応 坂井 上之

15:00-16:00 9) 安全講習 MR 装置の安全管理 (法令に基づく安全管理技術) 上田 優

10) 事故を起こさない環境と MRI 安全管理教育を考える 土井 司

(4) 開催方法

1) 基本的にウェビナーとオンデマンド配信とする。

2) できれば会場ライブ配信のハイブリッド方式としたい。

3) セミナーを収録しホームページの「動画で学ぶ医療安全」を更新する。

(4) 受講費

1) 更新のための受講は無料とし、それ以外は 1000 円を徴収する。

2) RacNe から申し込む、更新とそれ以外の区分けは RacNe で設定できる。

6. 認定機構の事務所に関して

(1) 事務作業の移行

2022年3月末で技術学会への委託業務を引き上げる。

(2) 事務所の登記

しばらくは技術学会事務局に置いていただける。

7. 会員管理システム RacNe の運用について

(1) 認定者名簿から消えている人への対応

本人が更新時に気づいていただかなくてはならない。

認定者として名前が消えているので気づく人がいる。

(2) 会計処理などの質問者への対応

山崎さんに対応していただくしかない。

(3) 認定技師の「新医療」への掲載について

RacNe のマイページの登録内容の確認を促す意味も含めて、雑誌への掲載の可否について一斉メールを発信する。

新医療への回答は 4 月 18 日なので第 17 回の認定者も含めることができる。

8. 専門技師認定機構の在り方について

(1) JRC2022 学生・若手会員向けセミナー（2022 年 4 月 15 日（木）16 時～17 時 50 分）

現存する 10 の専門技師認定機構の代表者に集まっていただき、各専門技師制度の設立目的を 3 分程度で説明し、その後は学生さんに依頼したアンケート結果を基に、多くの学生さんが臨床業務に就くにあたって、常に業務に前向きに取り組み、モチベーションをもって患者さんのため、医療のため、社会のために貢献するために専門技師制度を活用してスキルをあげてほしいといことをディスカッション形式（会議をライブ中継するようなイメージ）で伝えられるセミナーにしたいと考えている。

(2) 統一組織としての冠名称のアイデア

次回の認定機構連絡会で「日本医療専門技術者連合」という名称を提案する

9. その他

(1) 事務作業のための手当てを支給することはできるか

定款 第 15 条に「役員は無報酬とする」とある。しかし「会務のために要した費用は支給する」と但し書きがあるので、支給は可能かもしれない。

(2) 次回 2021 年度総会・2022 年度第 1 回理事会

2022 年 6 月上旬に開催を予定する。

以上